



令和6年度岩手県立大学看護実践研究センター事業 看護分野の情報管理と情報教育について考える研修会

責任者：遠藤 良仁 共同者：岡田 みずほ

活動概要

医療分野ではビッグデータ・IoT・人工知能などの活用が急速に進んでおり、看護分野でも情報化への対応と将来を見据えたマネジメントが求められている。そこで、本事業では情報管理に興味を持つ看護職の交流の場を設け、知識のアップデートや先駆的な事例の共有を図るものである。活動の3年目にあたる今年度は、オンライン参加も可能な形式で、2回の研修会を開催した。

活動成果

のべ38名の参加者が参加。第5回ではクリニカルパスの基礎や実践に焦点を当てた。「役立つ知識や発見を得た」と回答した参加者が90%に達し、多職種協働の重要性に関する意見が寄せられた。第6回ではAIやIoTを活用した看護記録や業務効率化をテーマとした。「テクノロジーによる支援の重要性」を10段階中「8」以上と評価した参加者が75%を占め、関心の高さが伺われた。

テーマ:パスについてしゃべろう!

講演

「パスってなあに?クリニカルパスの基本の「き」」

交流会

講師 吉川 朗 先生

岩手県立中央病院附属沼宮内地域診療センター

講師 高橋 奈美 先生

岩手県立中部病院 パス指導者

第5回

テーマ:看護業務を支援する最新のテクノロジー

講演

「転記なしで看護師の働き方が変わる!」

交流会

講師 瀬戸 僚馬 先生

東京医療保健大学 医療保健学部 教授

講師 中村 恵美子 先生

岩手医科大学附属病院 EHCU看護師長

第6回

参加者の声

「院内での取り決め、多職種との共同の方法など参考になることが多くあった。今回の研修を院内に持ち帰り、パスをより良いものにしていきたい。」
 「看護部だけでなく他職種にも関わってもらい、責任を持ってもらうことも必要だと学ぶことができた。」
 「色々な意見を聞くことができて良かった。学会や勉強会に医師と一緒に参加していきたい。」
 「記録のための用語の標準化が大事であり、今回の講義では学びが多かったので部門に持ち帰って伝達していきたい。」
 「どんどん進化、活用されるテクノロジーの研修は少なく、知らない事も多くあったので参加できてよかった。」
 「「忙しい」という言葉が飛び交う看護業務の中で、少しでも患者さんのベッドサイドに行く時間を増やせるよう、多重な業務を整理できればと思う。」等